

医療と物語

責任者・コーディネーター	人間科学科文学分野 平林 香織 教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科文学分野、医学部緩和医療学科、災害医学講座、医学部睡眠医療学科		
担当教員	平林 香織 教授、木村 祐輔 特任教授、眞瀬 智彦 特命教授、櫻井 滋 教授、三浦 康宏 助教		
対象学年	1	区分・時間数	講義 21 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

医学と医療との違いを考え、人間関係に基づく医療行為を理解するために、近代科学と対極にある物語の世界について考える。医療現場では、細胞や組織、臓器が病に侵されたときにどのように変化したかをみきわめる病理診断によって治療が行われる一方で、臨床疫学的な見地と個々の症例を結びつけたエビデンス・ベースト・メディスン（EBM 科学的根拠に基づく医療）と医療面接において病について語る患者のストーリーから病の原因と治療方法をさぐるナラティブ・メディスン（物語と対話に基づく医療）の両面から病を考えることが行われている。人はさまざまな要因によって病に陥る。本講義では文学の物語享受の有り方を通して、本学附属病院ならびに災害医療センターの臨床医の協力を仰ぎながら、病のストーリーを受容するため基本姿勢を学修する。とりわけ「死」をテーマにする文学作品を理解することによって、生きることと死ぬことの意味を自分に問いかける。

・教育成果（アウトカム）

文学がときに病と密接にかかわりながら創造されてきたことを理解し、医療現場における病者の物語、病の物語、医療者の物語に対する問題意識を持つ。文学の韻律や象徴の技法を学ぶことによって、文学を読み解くように病者や病の現実を受容するアプローチの可能性を理解する。臨床現場における最新の知見や症例における物語的側面に意識を向け、誠の医療人として地域での医療体験実習や臨床実習に臨む心構えを形成する。様々な物語を読むことによって、自分自身の人生、他者との関わり、医療人としての立場におけるナラティブを考え続けるためのビジョンを形成する。

・到達目標（SBO）

1. 医学と医療の違いについて説明することができる。
2. 物語とは何かということを説明することができる。
3. 事実にもとづく報告と、真実を語るための物語の違いについて理解することができる。

- 4.臨床現場における病と治癒を媒介する物語的側面について目を向けることができる。
 5.多くの物語を未読することによって死と生についてより深く思いをいたす。

・ 講義日程

(矢) 東 207 2-E 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
4/16	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	かぐや姫の物語—ナラティブメ ディ スンを考える—
4/23	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	「死ぬな」と言う勇氣—与謝野晶子 の非戦詩
4/30	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	象徴力—北原白秋の糖尿病と赤い鳥
5/7	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	死と再生—漱石における創造的病い
5/14	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授 木村 祐輔 特任教授	治療の物語—臨床における緩和ケア —
5/21	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	エロスとタナトス—中原中也におけ る依存の物語
5/28	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	兄弟姉妹の物語—宮澤賢治と宮澤ト シ
6/4	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授 櫻井 滋 教授	眠りと病の物語—行動睡眠医学の立 場から
6/11	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	死と自己犠牲—『銀河鉄道の夜』に おけるほんとうの幸い
6/18	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授 眞瀬 智彦 特命教授	災害医療の歴史と東日本大震災での 医療活動
6/25	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	遠野物語の世界—河童淵、座敷童 子、そして、津波
7/2	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授 三浦 康宏 助教	神話における治癒の物語—大国主命 の再生医療
7/9	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	火の祈り—高村光太郎と統合失調症

7/16	木	1	人間科学科 文学分野	平林 香織 教授	義理のために死を致す—太宰治と精神医学
------	---	---	---------------	----------	---------------------

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	医療人のための文学	平林香織	川口印刷	2012
参	ナラエビ医療学講座	齋藤清二	北大路書房	2011

・成績評価方法

受講態度（20%）、課題への取組（30%）、レポート（50%）によって総合的に評価する。

・事前学修時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型PC	1	講義資料の提示
講義	エルモ書画カメラ	1	講義資料の提示
講義	DVDプレーヤー	1	講義資料の提示